

# 酒造りは田植えから

## 有志20人 安曇野で作業



酒米の苗を手植えする参加者

で、新党日本酒の党首を務める、利き酒師・吉村結城子さん(三〇)＝松本市寿台九＝が呼び掛けた。酒をただ飲むのではなく、酒造りの苦勞を知り、日本の酒文化や農業への理解を深めようと企画した。秋には刈り取った稲をはざかけにして天然乾燥させ、オリジナルの日本酒に仕込んで楽しむと計画している。

田んぼは吉村さんの亡くなった祖父が所有していた。参加者は約十坪の田に、「美山錦」を植えた。大半は田植えが初めてで、受講生の百瀬克広さん(三〇)＝同＝は「酒造りの苦勞がわかった」と話し、斎藤長さん(八〇)＝同＝は「自分が植えた米で造る酒を飲むのが今から楽しみ」と笑顔だった。

松本市の寿台公民館で昨年度開かれた「利き酒講座」の受講生と、日本酒愛飲者団体「新党・日

本酒」のメンバーなど有志約二十人が十六日、安曇野市三郷温の田んぼで、酒米の田植えをした。「利き酒講座」の講師

(細野はるか)